

編集後記

本号は、2002年3月刊行の第1号から数えて50号目に当たる記念すべき号であり、それに相応しいボリュームのある1冊となっている。多忙な中、寄稿いただいた所員の皆様方に心より感謝を申し上げたい。とくに、寄稿のお願いを快諾していただき、早い時期に原稿を事務局に提出していただいた杉山博亮先生には、本号の校正作業が遅くなり、長期間お待たせしてしまう結果となってしまったことをお詫び申し上げます。

冒頭を飾る広瀬崇子所員の論稿「インドにおける電力問題と政治」は、2013年度の長期在外研究の成果である。現地調査から得られた情報や各種のデータを基にしつつ、経済成長が目覚ましいインドにおける電力問題が政治学的な視点から考察されており、大変興味深い。

続いて、石村修所員と杉山博亮客員所員による著書紹介である。所報のバックナンバーを遡ってみたところ、著書紹介という掲載内容は、本所報の装いが一新された第35号における高木侃現客員所員（当時、所員）によるものが初めての試みであったようであり、本号で3度目の試みとなる。当時の田邊宏康事務局長の言葉によれば、これには「所員の研究成果を所員全体の共有財産にする」という狙いがある。他者の著作に対する書評ではなく、自著についてその狙いや背景を自ら語っていただくという何とも書きにくい原稿のお願いに対して、快くお引き受けいただいた両先生に、改めて感謝申し上げたい。

本号は、本年度実施された「学生と市民のための公開講座」の講演録を特集記事として組んでいる。この公開講座は、前所長の時期に計画されたものの、予算等の理由でなかなか実現ができずにいた企画が多数の所員のご協力の上によりややく実現の運びとなったものである。全部で3回にわたる講座が実施されたが、本号ではそのうち第1回および第2回についての講演録を掲載している。第3回については、次号に掲載される予定である。

中川 敏宏（本研究所事務局長）